

分野	項目	目標		備考	令和3年度の取組み方法	実績		自己評価	課題・今後の取組み等	外部評価	外部評価の意見	
		年度	数値			年度	数値					
1	貸出	貸出冊数(個人貸出、市民+在勤者)	H30(2018)	539,900	【 】内は一日平均	①ブックトークやおはなし会などのPR (「お友達を誘って図書館へ」) ブックスタート時に、本を渡すだけでなく図書館の利用のメリットをPR ②市内施設へのチラシの配布 ③本庁ブックポストの存在感を上げる ④「来館者と本との出会いのきっかけ作り」 ・特集コーナーを目立たせる ・中央特集コーナーの設置頻度を上げる(最低年6回) ・カウンターの「今日のおすすめ」 ・棚作り(棚内の表紙見せやPOPのような工夫) ⑤学校への館外奉仕の拡大もしくは学校図書館への支援の拡大 ⑥選書の質の向上	H30	524,094【1878】	C	■前年比49136冊増(+11%) ■図書館の施設の魅力、棚(蔵書)の魅力を比較して、守山を使いたい市民層が一定数存在する。 ■「図書館を使っていない野洲市民」に図書館を使ってもらおう工夫(関連項目 6、7) ■「図書館を使っている野洲市民」がもっと借りたいと思う棚になっているかどうか(書架・蔵書の魅力)、借りたいときに借りられる棚になっているかどうか(十分な複本)、必要な冊数借りられる蔵書の厚み(同ジャンルの種数)があるかどうか ■図書館を利用するメリットの提示	C	・棚に本が詰まりすぎている(メンテナンスされていないのでは)。魅力のある棚づくりをお願いします。 ・特集が終わるとその本がどこにあるのかわからなくなってしまう。特集の本のファイルを作れないか。 ・「100分で名著」に出てくるような(基本的な)本は棚に置いておいてほしい。
			R1(2019)	539,900			R1	499,780【1844】	C			
			R2(2020)	539,900			R2	444,554【1723】	C			
			「提言」の該当箇所	R3(2021)			539,900	R3	493,690【1782】		C	
		(1)～(11)	R4(2022)	550,000			R4					
2	貸出	中主分館の貸出冊数(個人貸出、市民+在勤者)	H30(2018)	38,800	①購入図書の内容見直しおよび本館の資料との入替え(R3年度目標3000冊) ②“ない本でも借りられる”ことのPR ③在架予約の活用による、中主分館での資料受け取りの利便性向上	H30	37,727	C	■前年比4205冊増(+12.7%) ■中主分館の蔵書の魅力を上げるため、中主分館の蔵書の入替を実施。R3年度実績3265冊 中主分館の開架図書の10.4%) 今後も通常業務として継続して定期的に入替を行い、一般書は新刊も含めて年間で10%の更新をするようにする。	C		
			R1(2019)	38,800		R1	37,449	C				
			R2(2020)	38,800		R2	33,171	C				
			「提言」の該当箇所	R3(2021)		38,800	R3	37,376		C		
		(1)～(11)	R4(2022)	39,000		R4						
3	貸出	人口一人当たり貸出冊数(合計)	H30(2018)	12.7【9.6】	【 】内は市民のみの数値 ①一般向け利用啓発のポスター(チラシ)作成 ②転入者向け簡易案内配布 ③市内の会社向けの利用案内作成	H30	12.1【9.2】	C	■前年比+1.0冊(【+1.0冊】) ■貸出冊数が減少する中、関連して人口一人当たり貸出冊数は減少する。他の項目と同じく、野洲市民の利用・貸出冊数を増やす(減少させない)取り組みが必要	C		
			R1(2019)	12.7【9.6】		R1	10.9【8.7】	C				
			R2(2020)	12.7【9.6】		R2	9.5【8.3】	C				
			「提言」の該当箇所	R3(2021)		12.7【9.6】	R3	10.5【9.3】		C		
		(1)～(11)、(14)	R4(2022)	12.8【9.7】		R4						
4	貸出	市の児童一人当たり貸出冊数(市民のうち児童)	H30(2018)	12.7	市内の児童(0歳～12歳で積算)の貸出 ①児童向け読書案内作成 ②児童書を題材とした展示会を開催し、合わせて関連本を集集 ③学校・園に出向いた際に図書館の利用をPR ④市内全小学校にて、コロナ対策のうえブックトーク実施 ⑤市内3小学校にて、コロナ対策のため形式を変更したお話会の実施(うち2校はボランティアグループによる)	H30	12.8	A	■前年比+2.2冊 ■学校や園と連携しながらの取り組みは一定の成果が出ていると思われる。取り組み内容によっては、統計に上がらないことがあるが、子どもと本をつなぐことを目的としてすすめていくことが必要。 ■普段の生活の中で、図書館に来て本を借りる子どもを増やしたい。図書館の立地は子どもだけの来館は難しいため、親に連れてきてもらう必要がある。	A		
			R1(2019)	12.8		R1	12.2	C				
			R2(2020)	12.8		R2	11.0	C				
			「提言」の該当箇所	R3(2021)		12.8	R3	13.2		A		
		(4) (5) (14)	R4(2022)	12.9		R4						
5	貸出	団体貸出冊数	H30(2018)	28,200	①市内全小学校の全ての教室に「としょかんBOX」を配備 ②学校へ、調べ学習のための資料調達について、申し込み方法などお知らせ ③学童の利用促進を継続する	H30	24,994	C	■小学校に「としょかんBOX」の巡回事業を実施。R4年度より中学校へ「としょかんBOX」の巡回事業を開始 ■学校への読書用の個別の団体貸出は今後減少すると思われる。 ■調べ学習用の資料の貸出しなど、学校との連携を深めていく必要がある。	C		
			R1(2019)	28,200		R1	26,673	C				
			R2(2020)	28,200		R2	21,954	C				
			「提言」の該当箇所	R3(2021)		28,200	R3	38,184		A		
		(11)	R4(2022)	29,000		R4						

分野	項目	目標	備考	令和3年度の取組み方法	実績	自己評価	課題・今後の取組み等	外部評価	外部評価の意見		
6	登録	H30(2018)	21.8%	市民の実利用者数 市の人口	①一般向け利用啓発のポスター(チラシ)作成 ②転入者向け簡易案内作成 ③市内の会社向けの利用案内作成 ④小学校・中学校への登録の働きかけの実施を検討	H30	20.4%	C	■前年比+1.0% ■コロナ禍のなかの外出控えも一要因ではあると考えられるが、ウィズコロナ・脱コロナという状況下で来館を促す取り組みが必要(R4年は開館20周年であるため、企画を用意する) ※昨年度、最終案提示後に、R2の登録率の数値に誤りがあることが判明しました。22.6%と報告しておりましたが、正しくは16.1%でした。申し訳ございませんでした。 ※これを受け、令和4年度第1回図書館協議会にて、自己評価をC、外部評価をCに訂正することをご了承いただきました。	C	
		R1(2019)	21.8%			R1	-	-		-	
		R2(2020)	21.8%			R2	16.1%	C		C	
		「提言」の該当箇所	R3(2021)			21.9%	R3	17.1%		C	C
		(1)(14)	R4(2022)			22%	R4				
7	登録	H30(2018)	1,180人	①転入者への働きかけ ②ブックスタートにおいて赤ちゃんから登録可能な点をPR ③小学校・中学校への登録の働きかけの実施を検討	H30	1,092人	C	■前年比 -54人 ■転入、出生以外の住民の利用の掘り起こしは必要。(項目6と共通)	C		
		R1(2019)	1,180人		R1	995人	C		B		
		R2(2020)	1,190人		R2	924人	C		C		
		「提言」の該当箇所	R3(2021)		1,190人	R3	870人		C	C	
		(1)	R4(2022)		1,200人	R4					
8	問い合わせ	H30(2018)	件数5,180件 認知度50% 満足度70%	①日常の窓口業務の目配り ②フロアワーク ③アンケート(認知度・満足度を計る)	H30	件数6,137件 認知度65% 満足度97%	A	■件数:前年比 -302件 ■認知度:前年比 +8% ■満足度:前年比 +3% ■より気軽に司書へ声を掛けられる環境の整備が必要 ■認知度の指標が来館者アンケートであるため、“来館者の認知度”が上がっていることはわかる。 ■非来館者のレファレンスサービスの認知の向上のための取組みが必要。	A		
		R1(2019)	件数5,250件 認知度52% 満足度74%		R1	件数6,840件 認知度63% 満足度97%	A		A		
		R2(2020)	件数5,300件 認知度60% 満足度80%		R2	件数5,602件 認知度71% 満足度97%	A		A		
		「提言」の該当箇所	R3(2021)		件数5,300件 認知度60% 満足度80%	R3	件数5,300件 認知度79% 満足度100%		A	A	
		(3)	R4(2022)		件数5,300件 認知度60% 満足度80%	R4					
9	蔵書	H30(2018)	420冊/年	R3 児童滋賀 4冊 児童野洲 67冊 一般滋賀 274冊 一般野洲 267冊	①市役所各課作成資料の収集 ②市HP上の資料の受入等 ※資料が出るかどうかという外的な要因によって受け入れ冊数変動するため、数値は働きかけの部分を強化する方向で検討	H30	576冊	A	■前年比 -153冊 ■市役所各課からの資料提供と既存未整理資料の登録作業が順調に進んでいる。 ■市役所各課への提供依頼 業務用パソコンの掲示板で定期的に依頼を開始。 ■市内企業向けに、各社資料の提供依頼にも取り組んでいく必要がある。	A	
		R1(2019)	420冊/年			R1	495冊	A		A	
		R2(2020)	420冊/年			R2	770冊	A		A	
		「提言」の該当箇所	R3(2021)			420冊/年	R3	612冊		A	A
		(2)(13)	R4(2022)			420冊/年	R4				
10	集会行事	H30(2018)	1,070人	館内での職員実施のおはなし会の参加人数で積算(学校等から依頼があつて館内で実施したものは除く)	①新型コロナウイルス感染症対策のため、8/29~9月末、1/23~3月末は休止 ②コロナが沈静化している時期は、先着4組までとして実施	H30	1,216人	A	■新型コロナウイルス感染症対策を実施しつつ、状況に合わせて開催方法を検討していく。	A	
		R1(2019)	1,100人			R1	784人	C		B	
		R2(2020)	900人			R2	34人	D		-	
		「提言」の該当箇所	R3(2021)			900人	R3	316人		D	-
		(4)(5)	R4(2022)			1,150人	R4				

分野	項目	目標		備考	令和3年度の取組み方法	実績		自己評価	課題・今後の取組み等	外部評価	外部評価の意見
		年度	回数/年			年度	回数				
11	関係機関、団体との連携事業 「提言」の該当箇所 (12)(13)	H30(2018)	18回/年	資料の特設や展示など。 ①庁内掲示板による資料提供の呼びかけ等	①庁内掲示板による資料提供の呼びかけ等	H30	23回	A	■掲示板上の呼びかけを行うものの、知らなかったといわれることもある。他課職員との接触があるときに積極的にPRするなど工夫が必要 ■行政機関以外との連携も視野に入れる必要がある ■市行政機関の関係課では、図書館での展示を啓発事業の一環として活用できるといふ認知が進んでいる。	A	
		R1(2019)	18回/年			R1	21回	A		A	
		R2(2020)	19回/年			R2	24回	A		A	
		R3(2021)	20回/年			R3	24回	A		A	
		R4(2022)	20回/年			R4					
12	障がい者サービス 郵送貸出、宅配の実利用者数 「提言」の該当箇所 (8)(9)	H30(2018)	7人	サービス対象の手帳保持・要介護者：総計1687名(手帳保持R1年度、要介護R2年度)図書館利用カード登録者でサービス対象者数は不明 ①HP等での広報 ②関係機関へのPR ③当事者、支援者向けのPRイベントの実施 ④入院先の病院への宅配実施 ⑤市広報へのサービス案内の掲載 ※広報掲載後に問い合わせが多数あった。その中で、条件に合う方へ新規の宅配や郵送サービスを開始。 (加齢による来館困難を心配する方からの問い合わせも多くあった)	①HP等での広報 ②関係機関へのPR ③当事者、支援者向けのPRイベントの実施 ④入院先の病院への宅配実施 ⑤市広報へのサービス案内の掲載 ※広報掲載後に問い合わせが多数あった。その中で、条件に合う方へ新規の宅配や郵送サービスを開始。 (加齢による来館困難を心配する方からの問い合わせも多くあった)	H30	9人	A	■サービスを知ってもらうための広報やPRイベントの開催を継続する。	A	
		R1(2019)	9人			R1	11人	A		A	
		R2(2020)	14人			R2	11人	B		A	
		R3(2021)	16人			R3	17人	A		A	
		R4(2022)	18人			R4					
13	職員の対応についての満足度 「提言」の該当箇所 (15)	H30(2018)	85%	①接遇研修の実施 ②日常業務中での改善 ③職員の意識の向上	①接遇研修の実施 ②日常業務中での改善 ③職員の意識の向上	H30	96%	A	■前年比±0%(アンケートの結果) ■アンケートの自由記述だけでなく、日常のカウンター業務の中で発生する様々な事例を教材に、改善を進める ■健常者ための接遇だけでなく、障がいをもつ利用者への接遇方法についても研修を行う	A	
		R1(2019)	86%			R1	97%	A		A	
		R2(2020)	90%			R2	98%	A		A	
		R3(2021)	90%			R3	98%	A		A	
		R4(2022)	90%			R4					

*図書館協議会の「提言」の番号は「提言」p6の「野洲図書館のこれからのサービスのあり方」の項目番号。

*上記目標に入っていない項目は(16)施設・設備(17)図書館情報システム。どちらも毎年検討し、予算化されたものは実施している。

評価基準	A	目標を達成できた
	B	目標をある程度達成できた
	C	目標をあまり達成できなかった
	D	目標をまったく達成できなかった

*評価の期間は5年。目標設定は5年後を設定し、それに向けて1年ごとの目標値を定め、毎年評価を実施する。

*評価の方法：図書館で自己評価を実施。(毎年4月末まで)それを元に、図書館協議会に外部評価を実施してもらう。

*貸出冊数に関する目標数値は社会的要因によるところも大きいため、県内図書館の状況とも比較して評価を行う。(県内の公共図書館の平均数値との比較など)